

千葉県袖ヶ浦市の清川層より脊椎動物化石密集層の発見

A discovery of bone-bearing bed from the Kiyokawa Formation, in Sodegaura City, Chiba Prefecture, central Japan

兼子 尚知[1]; 岡崎 浩子[2]; 平山 廉[3]; 高桑 祐司[4]; 樽 創[5]; 伊左治 鎮司[6]; 鶴飼 宏明[7]; 加藤 久佳[8]; 百原 新[9]; 中里 裕臣[10]

Naotomo Kaneko[1]; Hiroko Okazaki[2]; Ren Hirayama[3]; Yuji Takakuwa[4]; Hajime Taru[5]; Shinji Isaji[6]; Hiroaki Ugai[7]; Hisayoshi Kato[8]; Arata Momohara[9]; Hiroomi Nakazato[10]

[1] 産総研・地質標本館; [2] 千葉中央博・地学; [3] 帝京平成大・情; [4] 群馬自然史博; [5] 神奈川県博; [6] 千葉中央博・地学; [7] 筑波大・地球科学; [8] 千葉中央博; [9] 千葉大・園芸; [10] 農工研・造構・土木地質

[1] Geological Museum, AIST; [2] Earth Science, Nat. His. & Inst., Chiba; [3] Fac. Inf., Teikyo Heisei Univ.; [4] Gunma Mus. Nat. Hist.; [5] Kanagawa Prefectural Museum; [6] Earth Sci., Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba; [7] Geosci., Univ. Tsukuba; [8] Nat. Hist. Mus. Inst., Chiba; [9] Horticulture, Chiba Univ; [10] NIRE

演者は1999年3月、千葉県袖ヶ浦市吉野田において、下総層群清川層(中部更新統)の露頭から、*Palaeoloxodon naumanni* (Makiyama, 1924)の臼歯および左脛骨の一部の化石を発見した。その後、演者らが予察的な発掘を行ったところ、*Testudines* (カメ類)・*Artiodactyla* (偶蹄類)・*Carnivora* (食肉類)などの陸生脊椎動物化石を多数産出することが判明した。2001年には、(財)藤原ナチュラルヒストリー振興財団の学術研究助成を受け、共同研究グループによって本格的な発掘を開始した。

これまでに、およそ50日におよぶ発掘調査により、500点を超える陸生脊椎動物化石を採取した。さらに、魚類、淡水生軟体動物、植物(葉・花粉・珪藻)の化石試料も豊富に得ることができた。発掘と同時に、詳細な地層断面の観察をおこない、堆積学および地球化学的データも収集した。その結果、脊椎動物化石を含む地層は河川の氾濫原堆積相であり、動物遺骸は洪水により集積したであろうことが判明した。

下総層群からはこれまでも多数の脊椎動物化石が発見されているが、詳細な堆積学的情報をもつ例はほとんどない。本研究により、洪水堆積物に含まれる遺骸群集の堆積学的特徴が明らかになるとともに、更新世における陸棲生物相の理解がすすむと期待される。